



「顔」

農業・農業を営む人・農産物にも、
それぞれ「かお」があれば、どんなものかと、思いをめぐらす。



○四季の変化に順応した農業は、
もう古いのだろうか。

栽培技術が進歩し、施設が改良されても、
大自然の恵みには及ばないという貴重で、
苦い体験を昨年した。
日常の管理も厳しき気候を前提に、
農業の原点にたちかえり、
土づくりの基本も認識したい。

○昨今は、野菜にしろ花にしろ、
いつでもどこでも容易に求められるようになった。
旬のもの「かお」が忘れられようとしている。

辛みのない大根、
独特なおいを失ったトマト、
香りの薄いバラ……
多くの農産物が「かお」を主張しなくなった。

○農業を担う人は、どうであろうか。

マイペースでも、差し障りのない、
日々努力の自由業。
大自然のなかで「土」にふれ、
「いきもの」に接し、
親しみながら実りを楽しめる。
噂をたどり「百聞は一見」、
ためして良ければ仲間に伝え、
喜びの輪を広げたい。

そして、
いつもすがすがしい、自信にあふれた
「かお」でありたい。

さあー 笑顔で頑張るぞ

○俺は、農産物である。

あなたが、汗した手塩に報い、
栄養たっぷり、見栄えのするよう育ちます。
美味調理をたのみます。

わたしのかおを見て下さい。



働く顔

よっつの顔～野原園芸～

広島から1100kmの行程を刻み、山形の地に山菜の勉強に出かけられた安佐町飯室の女性グループは、「あんな長旅、初めてだけど、楽しく、有意義な旅でした。これからも、いろんな場所を訪ねてみたい」と感想を述べられました。

このグループは、安佐北区安佐町飯室のほ場整備地区でハウス栽培に取り組む4人の女性で、いずれもハウス栽培初心者です。

千枚田のごとく谷あいに分布していた水田が、平成3年にはほ場整備工事が完成したことによって、大きく整理されたほ場となり、30aのビニールハウス（個人用4棟、共同5棟）が導入されました。暗渠排水埋設工事、ハウス建設などあらゆる作業をこのグループが協同で行いました。ハウス完成までに、相当苦勞があったとのことですが、その分、栽培に対する思い入れは違うようです。

実は、この女性グループ、以前はそんなに親しくはなかったようですが、現在は、経営も大半を協同で行うほどに、すごく仲の良い間柄になったそうです。作業は当然のこと、収入面も出勤歩合に応じた均等割です。

主な品目は、コゴミ（山菜）、イチゴ、宿根カスミソウ、モロヘイヤ、コマツナの五種類で「野原園芸」のネーミングで出荷しています。

「毎日、毎日が勉強の連続」とメンバーは口を揃えて言います。より上手に栽培し、より多い収益を目指してがんばる野原園芸。

読者の皆様も、ほ場整備、ハウス栽培を一考されては！



共同ハウスで収穫時期を話し合うよっつの顔



受精卵移植で和牛生産本格化

～広島市畜産新技術推進協議会～

安佐南区上安で酪農を営んでいるのは栗原隆幸さんです。最近の酪農情勢は、乳価の低迷や乳製品の輸入自由化など、酪農家にとっては頭の痛いことばかり。牛乳生産だけで安定した収益を得るのが難しくなっている中、栗原さんは受精卵移植に、早くから着目し、平成元年から乳牛を借り腹とした肉用牛（和牛）の生産に本格的に取り組みました。慣れない和牛子牛の飼育に戸惑うこともありましたが、今では和牛の繁殖農家に引けをとらないまでになりました。牛乳と肉用牛の複合経営で、きびしい情勢を乗りきるため毎日がんばっています。

施設の顔

おいしい白木和牛の生産基地

～白木和牛肥育センター～

J A広島市が管理する肉用牛肥育センターが白木町にあります。これは、農家で生まれた子牛を肉用に仕立てるまでの間、肥育する施設です。素質のいい子牛が安価で県外に売られていくのを防ぎ、地域の肉用牛改良と農家の経営向上を図るために、昭和63年に設立されました。

現在、1年間に約70頭の肉用牛が出荷され、品質の良い白木和牛肉として、市民に喜ばれています。



▲肥育センター畜舎で肥育中の肉用牛



安佐北区白木町志路▶



「儲ける農業経営」に燃える～野菜クラブ～



たまき作業中の加藤忠さん（安佐南区東原二丁目）

広島市内の後継者等が自主的に作る研究会組織で、昭和56年に会員10名で発足しています。現在30才代を中心とした16名で、施設野菜や鉢物生産に取り組んでいます。

活動は、毎月の定例会を中心に展開され、「儲ける農業経営」が最終テーマです。そのため各自で自主的なテーマを掲げ、より実践的、有効的な栽培手法を探し、結果発表や情報交換を行っています。

また、地域の中核的担手の役割も自覚し、地域の交流活動へも積極的にかかわっています。

今後も、時代の流れをみすえ、よりレベルの高い農業経営を探究し、楽しみ、助け合う仲間として、長く活動が続くよう願っています。



家族ともども参加の年始め定例会

白木町農事研究会 青ネギ売上げ1億円達成

白木町農事研究会青ネギ部会は、平成5年の年間売上げで、1億円の偉業を達成しました。昭和62年の売上げ120万円から6年後に1億円を達成したわけですね。33名で約160tを生産しました。例えば、平成3年の台風19号による大被害を乗り越えてのことで、余計重みを感じさせられます。

栽培は、ビニールハウスによる周年栽培が主体です。会員の生産販売技術の向上のため、研究会組織をあげて、市場の動向調査、最新の技術情報収集、実用的な技術研修会の開催など、多方面にわたった研修会が企画実施されています。

次なる目標に向かう会員の皆さんの熱い思いが、伝わってきますね。



栽培現場で開かれた地区別研修会

田畑のリフレッシュ大作戦

～安佐北区安佐町飯室地区～



▲表土（こえ土）のはぎとり中の旧田畑

新しい区割に敷きならされる表土▶



現在、安佐北区白木町井原地区でも、同様の工事が完成間際となっています。

広島市農業振興センター “新しい顔”で再スタート!!



当センターの新しい事務所が、安佐北区深川八丁目30-12（現在の園芸課と併設）に完成、4月から、すべての業務を新事務所で行います。これを契機として広島市農業の発展のため、職員一丸となってがんばって行きます!!

TOPICS

トピックス



安佐分場・花みどり公園

1 シャクナゲの見ごろは4月中旬から ～当センター安佐分場・花みどり公園～

現在130品種、4,500本を園内に植栽している安佐分場・花みどり公園。春一番に開花するアカボシシャクナゲ、黄色のサフロクイン、紫色のブルーピーター、春・秋に2回開花する四季の輝、また、この地方に自生しているツクシシャクナゲなど数多く植栽展示しています。主な品種の開花時期は4月中旬～6月上旬です。この他にも庭園樹や下草類、花木等が各種展示しており、庭作りの参考になるよう配植しています。

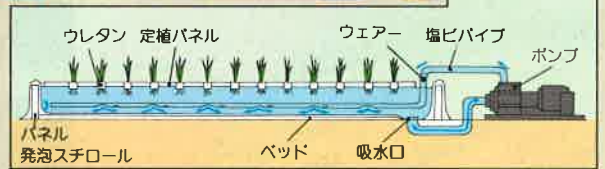
2 試験研究施設の“顔” 新しい“顔”完成

これまで当センター園芸課では、花・野菜の栽培技術開発、バイオテクノロジー、土壌診断と大まかに三つの顔を持っていましたが、このたび養液栽培システムの顔が加わります。

今年3月に2基（3方式5機種）の養液栽培システムが完成します。次世代農業の柱として、期待が高まっている養液栽培の本格的な試験を開始します。是非見学におこし下さい。



◀ベッド設置例



●設置図(例)



高品質のバイテック・ダリア収穫に思わず笑顔

3 バイテック苗で産地作り

今年の夏から当センター園芸課で開発したバイテック・フキと、バイテック・ダリアによる産地作りが本格化します。バイテック・フキは平成3年から佐伯区の農家に、バイテック・ダリアは昭和63年から安佐北区の農家にお願ひし、試験的に栽培を行ってきました。フキは「生長が早く、作りやすく、収量も大変多くなり、しかも品質が良くなった。」ダリアも「高品質の切花が多くとれるようになった。」と高い評価を得ました。

バイテックフキ・ダリア苗は、農協育苗センターをとおして7月から販売されることになっています。また、パセリ、グロリオサ、シャクナゲ等について、順次開発、普及していく予定です。

4 牛の鼻紋



どう？アツプに耐えられる顔かしら？エツテカイ鼻ですって？まあ、失礼な。

鼻は、私たち和牛にとって命の次に大切なものなんです。なぜかというと、由緒正しい和牛であることを証明する「血統登録」に、なくてはならないものなんですもの。血統登録って申しますのは、人間でいえば戸籍みたいなものではないでしょうか。この時、鼻に墨を塗って、魚拓ならぬ鼻拓をバタン！これがくすくすしたいのなんのって！こうして紙に写し取った鼻の模様（鼻紋）は、人間の指紋のように二つとないそうなので、一頭一頭を区別するための血統登録に使われているんですよ。どう、すごいでしょ！

5 花であふれる アジア競技大会会場づくり

大会の会場となる安佐北区スポーツセンターを、1万本以上のマリーゴールドで飾る運動が、盛り上がっています。これは、高陽地区の自治会、PTAなどで構成された実行委員会がすすめているものです。こうした運動は安佐南区などでも展開されています。当センターは、栽培面での指導助言を行っています。

また、広島産の花のアピールも兼ねて、当センターは、選手村へ切花の提供を行う予定です。



安佐北区スポーツセンターに飾られたマリーゴールド